

第15回「日本語体験コンテスト in 上海」が東方新報に掲載されました！

2017年9月28日(木)

東方新報

平成29年5月20日 第三版郵便物承認 2017年9月28日

責任編輯：趙松
官網：www.livejapan.cn

本地新聞

11



▲評審後選出的10名優勝者(前排)和嘉賓們與評審委員合影留念。

“共立杯”大·中學生日語演講賽 在上海市甘泉外國語中學舉行

【本報記者何江報道】今年是日中邦交正常化迎來45周年，在這有重要紀念意義的一年，9月16日下午，由日本文部科學省、日本共立國際交流獎學財團、日本國駐上海總領館、上海市教委、全日空上海支店等多家單位協辦的第十五屆“共立杯”大、中學生日語體驗大賽的決賽，在有着45年日語教育特色、多語種發展的上海市甘泉外國語中學隆重舉行。該項賽事由日本共立獎學財團出資，上海市甘泉外國語中學負責具體承辦。

大賽由共立國際交流獎學財團評議員江副隆秀、理事長菊川長德、共立育英會、共立日語學院菊池亞希子組成專家評審團，日本國駐上海總領事館加藤孝子副領事、全日空上海支店總務營業高級經理芝泰伸、上海市教育委員會國際交流處副處長劉江園、上海教育國際交流協會秘書長李維平等嘉賓蒞臨了本次比賽。

在緊張的比賽前，記者採訪了共立國際交流獎學財團理事長菊川長德先生：他說：當初共立杯日語比賽的目的，正是想為了給，在努力學習着日語的中國的大學生和高中生孩子們，有一個驗證自己的日

語綜合學習成果和水平的好機會的賽事。經過初賽和決賽，優勝者將獲得日本5晚6天的日本體驗旅行，我們希望為這些感興趣，而有緣喜歡上日語學習的孩子們，提供一個更多的可以通過自己的雙眼，自己的親身赴日體驗，去了解真實日本，理解日本的機會。

本次大賽報名參加比賽的選手共計139名，包括：來自同濟大學、上海交通大學、上海外國語大學等15所高校的72名大學生，以及來自上海市甘泉外國中學、上外附中等5所中學的67名中學生。經過激烈競爭後，25名選手得以進入決賽。作為承辦方的上海市甘泉外國語中學憑借45年的日語教學積累和經驗，最終有8名學生入圍決賽，2名學生獲得優勝獎。

決賽中25名選手的演講精彩紛呈，各有特色，將對決賽的題目，進行了多角度的解讀，通過優秀的日語表達將自己的觀點清晰呈現。所有選手都表現不俗，最終有10名選手脫穎而出獲得優勝獎，並最終獲得將於明年1月22日-27日的6天免費日本體驗文化的好機會。

上海市甘泉外國語中學的劉國華校長致辭中說，該項賽事連續15年的成功舉辦以來，為數以千計的青少年搭建了相互交流，和展示日語學習成果的大舞臺，更是提供了分享日語學習心得的好機會。來自長三角的大、中學生們在“共立杯”的比賽中激發日語學習的熱情，結交了志同道合的新朋友。他說，比賽雖然即將結束，但中日友好，還將繼續，同學們通過參加中日交流來提升自己的外語能力也將繼續，我們今年參加全國的日語和德語的技能比賽，兩項的冠軍都是甘泉學子，這與日常的各種活動給孩子們的鍛煉機會是分不開的。

在隆重的頒獎環節，共立國際交流獎學財團的菊川長德理事長對參賽者的表現給以了很高的認可和贊揚。審判委員長江副隆秀對本屆比賽的選手表現做了點評。他指出，所有25位決賽選手都表現優秀，在演講中都能關注到身邊的小細節，從一個個小故事裏將主題進行陳述。每位選手都各有特點，展示出了日語學習者的良好日語能力和對日本文化理解的較高綜合水平。



▲日本駐上海總領事館加藤孝子副領事(右)向上海市甘泉外國語中學劉國華校長授予紀念碑。



▲決賽選手在發表精彩的演講。

【日本語訳】

今年は日中国交正常化 45 周年を迎え、記念すべき重要なこの 1 年に、9 月 16 日午後、日本国文部科学省、国立国際交流奨学財団、在上海日本国総領事館、上海市教育委員会、全日本空輸株式会社 上海支店等が主催・後援をしている、第 15 回「日本語体験コンテスト in 上海」が 45 年間の日本語教育、多言語の発展という特色を持った上海市甘泉外国語中学にて盛大に行われました。このコンテストは国立国際交流奨学財団が出資し、上海市甘泉外国語中学が業務を請け負っています。

コンテストは国立国際交流奨学財団評議員の江副隆秀氏、菊川長徳理事長、共立育英会 共立日本語学院の菊池亜希子氏によって審査され、在上海日本国総領事館 加藤華子副領事、全日本空輸上海支店 芝泰伸副支店長、上海市教育委員会 国際交流部 劉江園副部長、上海教育国際交流協会 李維平事務局長等の来賓が今回のコンテストに臨席しました。

緊張のコンテスト開催前、記者は国立国際交流奨学財団理事長 菊川長徳氏にインタビューを行いました。「日本語体験コンテストの目的は、頑張って日本語を学習している中国の大学生や高校生達に、自分の日本語の総合的な学習成果やレベルを試す機会を与えるためです。予選会と本選会を経て、入賞者は 5 泊 6 日の日本体験旅行を獲得します。私達は、興味から縁あって日本語の学習を好きになった学生達のために、自分の目を通して、実際に日本に行き、日本を理解する機会を与えたいと思っています。」と彼は話しています。

今回のコンテスト応募者は、同済大学、上海交通大学、上海外国語大学等 15 か所の 72 名の大学生、また上海市甘泉外国語中学、上海外国語大学附属外国語学校等 5 か所の 67 名の高校生を合わせた 139 名でした。激しい競争を経て、25 名の予選通過者が本選会へと進みました。業務を請け負っている上海市甘泉外国語中学の 45 年の日本語教育の積み重ねや経験に基づき、8 名の学生が本選会へ進み、2 名の学生が入賞しました。

本選会での予選通過者 25 名のスピーチはとても素晴らしく、それぞれ特徴があり、スピーチのテーマに対して、様々な角度からの分析を行い、優れた日本語の表現を通して自分の主張をはっきりと表しました。どの学生の表現もあか抜けており、最終的に 10 名の学生が頭角を現し入賞を勝ち取り、来年 1 月 22 日～27 日の 6 日間の日本体験旅行の機会を得ました。

上海市甘泉外国語中学の劉国華校長は挨拶の中で、次のように話しています。「本コンテストは連続 15 年の開催以来、何千という青少年に相互交流や、日本語学習成果を発表する大舞台、更に日本語学習で会得したものを分かち合う機会を与えてきました。長江デルタ出身の大学生、高校生達は『日本語体験コンテスト』において日本語学習の熱意を掻き立て、意気投合した新しい友人が出来ました。コンテストは終わりましたが、日中友好はまだ続いており、同級生も日中交流への参加を通して自分の外国語能力も上がり続けています。私達は今年も全国の日本語、ドイツ語の技能コンテストに参加し、どちらのコンテストも優勝したのは甘泉の学生でした。これは普段の様々な活動を与える学生達への訓練の機会と切り離すことは出来ないでしょう」

盛大な授与式の中で、国立国際交流奨学財団の菊川長徳理事長は入賞者の表現に対し、賛同と称賛を送りました。江副隆秀審査委員長は今回のコンテスト参加者の表現に対して講評を発表しました。彼は、「25 名の予選通過者の表現はみな優秀で、スピーチの中でも身の回りの細かいところにも気が付き、ひとつひとつの小さなエピソードから主題へと陳述しています。どの学生もみなそれぞれ特徴があり、日本語学習者の素晴らしい日本語能力と、日本への文化理解のレベルの高さを表しています」と話しています。